



- 甲府やまなみクラブ会長主題：千里の道も一歩から Part2  
～広く仲間を募り、ともに歩みを進め、交流の輪を広げましょう～ 米山 俊彦
- あずさ部長主題：垣根を低くし、活発な活動を 山口 直樹（東京武蔵野多摩）
- 東日本区理事主題：ワイズのらしさ再発見 山下 真（十勝）
- アジア太平洋地域会長主題：信念と愛を持って行動しよう 田上 正（熊本むさし）
- 国際会長主題：信念、愛、行動 エドワード・オン（シンガポール）

甲府やまなみ  
ワイズメンズクラブ  
2026年5月  
No.44

●今月の強調目標

LT・ユース

●今月のことば

「生老病死」

和田 幸士 君 選

今月の例会案内（第44回）

- 日時：2026年5月13日（水）18:30～20:30
- 会場：山梨YMCA
- 会費：1,500円（食事代）

- ・開会点鐘 米山 俊彦 会長
- ・ゲスト・ビジター紹介 司 会 者
- ・ワイズソング 一 同
- ・会長挨拶 米山 俊彦 会長
- ・今月のことば 和田 幸士 君
- ・ワイズディナー
- ・ゲスト卓話 「アフリカ千日」  
甲府市出前講座講師 土井 義尚 様
- ・諸報告
- ・ハッピーバースデー&アニバーサリー
- ・YMCAの歌 一 同
- ・閉会点鐘 米山 俊彦 会長

4月のデータ

会員数:12名  
 例会出席:メン 4名 メーキャップ:1名(和田)  
 例会出席率:33% 修正出席率:42%  
 Week for Waste (収集ゴミ): 4kg

ハッピーバースデー

大澤 祥子 (5/28)

アニバーサリー

該当者なし

Photo of monthly



【5月3日(日)やまなみ農園-サツマイモの畝作り】

▼今月のことば▼

和田 幸士

「生老病死」とは、仏教由来の言葉で、人間が生きる上で避けることのできない「生まれる、老いる、病む、死ぬ」という四つの根源的な苦しみ(四苦)の事です。

この四つの言葉は、生まれ、年を取り、病気になり、そして最終的には死ぬという、全ての人間が共通して経験する人生の基本的な過程を表しています。これらをただの苦しみとしてではなく、人生を豊かに生きるための教訓として捉えることが重要です。これらを通して、人生の本質を理解し、より深い洞察を得る機会と捉えています。人生の無常性を認識することで、現在の瞬間を大切にし、心の平穏を得ることができるのです。そして、私たちは人生の波に対してより強く、より安定した姿勢で立ち向かうことができ、結果として、より満足で充実した人生を送ることができるのです。

## ● Week 4 Waste の 4 月例会 ●

渡邊 隆

4月12日(日)快晴のなか、午前11時、甲府駅北口藤村記念館前に甲府やまなみワイズメンズクラブ4名が集合し、よっちゃばれ広場周辺のゴミ拾い清掃活動を実施いたしました。

前日からこの広場ではジュエリーの展示即売が開催され、大勢の来客でものすごい賑わいでした。また、綺麗なものが多く展示されお客様を楽しませていました。扱うものが豪華なせいか、我々担当の清掃活動は、飲食をしながら貴金属を手にするができない為か会場が汚れるようなものはほとんど見受けられませんでした。よって、我々は広場周辺道路沿いのゴミ拾いを実施しました。

最近、喫煙者が減ったと言われていたのですが、たばこの吸い殻、お菓子の袋、コンビニ近くのゴミ箱から溢れたプラスチック容器、ペットボトルなど約4kg弱を回収しました。



食べ物のパッケージは興味をそそる楽しく、おいしそうなものばかりですが一旦口に入ると、邪魔なものになり捨てられるのでしょうか。

話が飛躍しますが、髪の毛は整髪された美しいものですが、一旦抜けて肩に落ちれば不潔と言われます。まずは自分からごみを出さないようにしたいです。



寺院の入り口の「脚下照顧(きゃっかしょうこ)」「看脚下(かんきゃっか)」と書かれた標語が掛けられています。足元から心を整えるという意味に使われるようです。自分のよりどころとなる足元を自分の礎とし、足元を見つめなおすことを大切にして、ゴミ拾いの経験を生かしたいです。

清掃活動終了後、米山会長の勤務先である「甲府駅北口まちづくり委員会」の事務所をお借りして、コンビニ弁当を食べながら例会(反省会)をしました。参加者は米山・松本・仙洞田・渡邊でした。

## ♣ やまなみ農園だより ♣

4月23日にジャガイモの施肥と土寄せを行いました。4月25日には渡邊さんがサツマイモの耕作予定地をトラクターで除草・耕耘し、5月3日、米山・渡邊・和田・和田メネット・ピーター(甲府クラブ)・仙洞田で畝作りをしました。玉葱は順調に育っています。(仙洞田安宏)



【5月3日ジャガイモ】



【4月19日玉葱】

## ★ みずがきの家学習会 ★

山梨YMCA史料室運営委員会では、「みずがきの家学習会」という勉強会を行っています。6回目となる学習会が4月16日(木)18:30から山梨YMCAで開催されました。今回は「ボーイスカウトと山梨YMCA」というテーマで前島誠さん(ボーイスカウト甲府第5団)のお話を伺いました。ボーイスカウトの活動を詳しく知ることができました。参加者はワイズメン、YMCA関係者、ユースなど12人でした。(仙洞田安宏)



## ▼ これからの予定 ▼

- ✓ 5月23日(土) 第28回山梨YMCAインターナショナル・チャリティーラン(小瀬スポーツ公園)
- ✓ 6月 3日(水) 6月例会  
卓話 山梨ホスピス協会理事長・阿部文昭様
- ✓ 6月 6日(土) 東日本区大会(石巻市)
- ✓ 6月21日(日) ソライチ(フリーマーケット)
- ✓ 6月27日(土) 山梨YMCA創立80周年記念式典

## ◆ あずさ部第2回評議会 ◆

米山 俊彦

4月18日土曜日、八王子市の「高尾の森わくわくピレッジ」で開催されました第2回評議会へ、やまなみクラブからは仙洞田さんと私の2名が参加しました。

甲府駅から中央本線の普通電車「高尾行」に乗って、およそ40年ぶりの各駅停車の旅を楽しみました。

評議会は、東京の5クラブと長野の2クラブ、そして山梨の4クラブから44名の参加がありました。

議案審議に先立つ開会式では、ホストクラブである東京八王子クラブの長谷川あや子会長による歓迎の挨拶の後、ユース報告として中央大学の学生サークル“ひつじぐも”による活動報告がありました。“ひつじぐも”は、国際ボランティアサークルとして、また学生YMCAとして、児童館や障がい者支援施設でのボランティア活動からタイや中国、韓国などとの国際交流活動なども行うとともに、東京八王子ワイズの例会への参加も行っていて、日頃からワイズとの関係が深

い団体です。

議案審議では、第一号議案として2026-2027年度あずさ部部长活動方針(案)、第二号議案として新年度のあずさ部役員(案)が次期あずさ部部长の大和田浩二さんから提案され、全会一致で承認されました。また、第三号議案では、新年度のあずさ部予算(案)が承認され、第四号議案では、2027-2028年度のあずさ部部长に東京サンライズクラブの大谷博愛さんが推薦されました。

議案審議の後、CS・Yサ事業助成金の贈呈が行われ、今年度は、甲府21クラブのベビーカーコンサート、富士五湖クラブのフライングディスク大会、そして甲府やまなみクラブのグローバルフェスタ2025の山梨県内3クラブが対象となりました。グローバルフェスタが、地域奉仕・YMCAサービス事業として評価された事は、誇らしく、喜ばしい事であり、やまなみクラブとして今後も事業をさらに発展させていきましょう。

その後は、各クラブの会長報告とグループに分かれ

て、あずさ部について語り合うグループシェアタイムが設けられ、様々な意見が各クラブで共有されました。

会議終了後は、高尾駅近くの居酒屋「目利きの銀次」で二次会が行われ、お酒が入るとまた、雰囲気も変わり、久しぶりのメンバーと盛り上がり、初対面の会員とも新たな交流も生まれた評議会となりました。



山梨 YMCA 総主事

中田 純子

「共に歩む」

5月の爽やかな風が、山々の新緑を揺らす季節となりました。甲府、甲府21、やまなみ、富士五湖、松本、長野の各ワイズメンズクラブの皆様におかれましては、変わらぬご支援に感謝いたします。

本年度の山梨YMCAは、創立80周年という大きな歴史の節目を迎えております。この記念すべき年を、私たちは「これまでの歩みへの感謝」と「次代への新たな一歩」を刻む大切な一年としてまいります。

今月5月には、毎年恒例行事である「第28回インターナショナルチャリティーラン」を開催いたします。障がいのある子どもたちを支援するためのこの大会は、まさにYMCAの理念を体現するものです。共に走り、共に支え合う喜びを分かち合うこの日に向けて、現在、実行委員会を中心に一丸となって準備を進め

ております。

さらに、続く6月には、年度の指針を定める「総会」、そしていよいよ「創立80周年記念式典」を執り行う予定です。80年という長い歳月、山梨の地で青少年の育成と地域社会への奉仕を続けてこられたのは、他でもないワイズメンズクラブという力強いパートナーが常に寄り添ってくださったからに他なりません。現在、式典を最高の形で迎えるべく、各実行委員会が本格的に始動しております。会議を重ね、細部にわたり心を尽くして準備に当たる委員の皆様には、YMCAを愛する深い思いが溢れており、私自身、大きな感動と勇気をいただいております。

これらの行事は、単なるイベントではなく、私たちYMCAとワイズが守り続けてきた精神を再確認し、広く社会へ発信する貴重な機会です。一つひとつの活動が大きな実を結び、80周年の喜びを皆様と共に分かち合えることを切に願っております。